

妙法寺だより

令和二年

春号

新型コロナウイルスの感染拡大にあたり

妙法寺の対応についての大事なお知らせです

コロナウィルス感染防止にあたり
 春季彼岸会については
 次のように対応して参ります
 必ずご確認ください

彼岸会法要は中止



3月20日（彼岸中日）、
 午後2時からの「春季彼岸会法要」は、多くの方々が集まるため、感染リスクを考慮し、**法要は中止致します。**



その代わりに…

法要のネット中継を行います

3月20日 午後2時より「お彼岸法要」をネット配信致します。本堂への参列はご遠慮頂き、パソコンやスマートフォンなどを通じてお参りください。

※3月20日に妙法寺のホームページよりアクセス頂けます。
 横浜 妙法寺 でご検索ください。



卒塔婆供養・お墓参り



卒塔婆の受付は承りません。例年通り、3月14日迄にお申込ください。お彼岸が始まる3月17日迄に卒塔婆を書き、お経を上げておきます。3月17日〜23日までのお彼岸期間中、本堂に並べておきますので、ご自分でお持ち頂き、お墓参りください。



▲のような形で、本堂内に卒塔婆を並べておきますので、お名前をご確認頂き、お持ちください。

外出がご不安な方

外に出るのがご不安な方は、卒塔婆の申込用紙に、その旨をご記入ください。お寺で、卒塔婆とお線香を墓地にお供えさせていただきます。



お花・お線香



墓参りのお花は、3月17日〜23日までのお彼岸期間中はご用意しております。
【数に限りがございます】



地元彼岸棚経



- 3月
- 17日 …… 中村地区 三・四丁目方面
 - 18日 …… 下地区 二丁目
 - 19日 …… 金房地区
 - 21日 午前 …… 上矢部羽根沢地区
 - 午後 …… 旭区南本宿方面
 - 22日 …… 歌舞伎地区一丁目

毎年、春のお彼岸の棚経は、住職が回っておりましたが、今回の対応にあたるため、他の僧侶が伺う場合もあります。何卒、ご了承ください。



どうぶつ供養会

毎年、午前11時から行っている「どうぶつ供養会」も中止致しますが、「春季彼岸法要」と同時に**卒塔婆の受付は承りません**。3月14日迄にお申込ください。お彼岸が始まる3月17日迄に卒塔婆を書き、お経をお上げておきます。3月17日〜23日までの**お彼岸期間中、本堂に並べておきますので、ご自分でお持ち頂**き、**どうぶつ供養塔にお参りください**。

ご先祖様のご供養と共に今回の感染被害が一刻も早く終息するように、各ご自宅のお仏壇などで、祈りを捧げましょう。



浄心道場は中止致しました

すでにお葉書でもお知らせ致しました通り、3月1日の浄心道場は、1部の供養会は中止し、2部の法話会は延期することと致しました。講師としてお招きしていただきました千葉公慈先生に、コロナウイルスの感染拡大を懸念している旨を相談したところ、「私も妙法寺様に行くのを楽しみにしておりましたので「中止」ではなく「延期」にしましょう」と温かいお言葉を頂きました。千葉公慈先生の法話会につきましては、改めて詳細をお知らせ致します。



次回、告知を楽しみにお待ちください。

シリーズ

うちのお寺は日蓮宗

第二十九段

今回はお彼岸に合わせて、「お彼岸は、心と生き方の定期検診」と題して、お話しさせていただきます。



◆ 彼岸とは ◆

「彼岸」とは「向こう側の岸」という意味です。この「向こう側の岸」とは、どのような岸かと申しますと、「仏様の悟りの世界・浄土の世界」を表しております。それに対して、迷いや苦しみの多い、私たちの世界を「此岸」と呼んでいます。お彼岸は、ご先祖様にとつて、迷いや苦しみの世界に落ちないように、南無妙法蓮華經のお題目を唱え、卒塔婆を供え、お墓参りをし、浄土世界へと導いてあげる「供養の週間」であると共に、私たちにとつても「彼岸の心・仏の心」になるように、勤める仏道週間でもあります。



◆ 心と生き方の定期検診 ◆

お彼岸は「心と生き方の定期検診」と、日頃から皆様にお話をしております。私たちの身体も定期的な健康診断によって、身体の状態をチェックし、状態を確認することと同じように、年に2回、春と秋に「心と生き方」のチェックする定期検診が「彼岸」であると考えております。私たちの心も定期検診をしないと、いつの間にか不健康になってしまうものです。

仏教には、彼岸中に行うべき修行として、「六波羅蜜」というものがあり、6つの修行であると共に、心を健康に維持するための6つのチェック項目でもあります。



◆ 六波羅蜜 く6つのチェック項目く ◆

一、布施 (ふせ)

「布施」は、お寺にお金を納めることではありません。「あれも欲しい、これも欲しい」「自分だけよければそれで良い」という、足るを知らない心、貪りの心、貪欲な心に犯されていないか。人に施し、分け与えることをしているか。ということでもあります。人に分け与えるのは、決してお金やモノだけではありません。「言辞施」という思いやりのある言葉。「和顔施」という笑顔の施しも立派な施しの修行であります。

二、持戒 (じかい)

持戒は「戒めを守る」ということであります。「規則・規律・ルール・約束・マナー」を守るとが「持戒」であります。自分自身を律して生きているだろうか？ということ自らに問い直してみましよう。「規則を守る」というと、堅苦しく窮屈なイメージがあるのではないでしょうか。しかし仏教では、戒を保つことによつて、私たちの心や生活がその規律によつて、乱れず守られていると教えています。

三、忍辱 (にんにく)

忍辱とは「耐え忍ぶ心・我慢する心・思い通りにならなくても辛抱強く耐える心」であります。

最近「待つ」ということができなくなった時代であると思います。「待つ」ということは忍辱の修行であります。私自身も時折戒めています。昔は、手紙を書き数日かけて届けていたのが、メールとなり、現在では送った文章に「既読」がつき、読んだかがわかるLINEが主流となり、返事が来ないことにイライラする人も多いようです。またクリック一つで、次の日には注文した商品が届き、待つことの少ない便利な時代になりました。辛抱強く待つことは、忍辱の修行であり、簡単に手に入つたものは、簡単に飽きてしまいます。「桃栗三年柿八年」という言葉がありますが、ゆつくり育んでこそ、その尊さを感じる事ができるものです。「待つ」ということは、心を育む大事な時間であると受け止めましょう。



四、精進 (しょうじん)

「精進」を一般的な言葉で言うと、一生懸命に励み、努力することです。精進は、勉強・スポーツ・仕事だけに励むのではなく、自分の与えられた役割をしっかりと果たしているか

どうか？サボる心、怠ける心が起きていないだろうか。いさめることが大事です。

「人はこの人間世界で、修行するために生まれてきた」という話を聞いたことがあります。人生のなかで、学び続ける努力、健康を保つ努力、心を磨く努力。人生100年時代と言われるなかで、人間は死ぬまで精進し、努力を続けることが大事だと感じます。

五、禅定（ぜんじょう）

「禅定」とは、「心を静めること・乱さないこと・慌てないこと・流されないこと・穏やかな心を保つこと」であります。現代では、テレビや新聞はもとより、ネットなどでたくさん溢れる情報、不確かな情報によって、自分自身が振り回されたり、流されることがなく、正しい情報を判断し、常に穏やかな心を保つこと。人の噂や陰口など、外からの雑音に惑わされないことなく、自分自身の心に目を向ける、声に耳を傾ける、ということが「禅定」という修行であり、生き方であると思います。

「歩」という文字は「少し止まる」と書きます。少し止まって心を落ち着けることも、人生を歩む上で大事なことではないかと、この漢字が教えてくれます。



六、智慧（ちえ）

「智慧」とは、信仰の心を指します。今まで紹介してきた「布施・持戒・忍辱・精進・禅定」の5つの修行を信仰の心を持ちながら、南無妙法蓮華経のお題目を唱え、実践し正しい生活を送っていくことが、仏の智慧であり、信仰のある生活であると言えます。

◆ 最後に ◆

「六波羅蜜」という、お彼岸に行くべき6つの修行、6つ定期検診、いかがだったでしょうか。

今、日本では、新型コロナウイルスの感染拡大によって、不急の外出が控えられています。静かにご自宅でご自身の心や生活と向き合い、正しい生き方を意識することによって、健やかで穏やかな健康を養う機会にはいかがでしょうか。



花まつり法要の

対応について



毎年4月8日に行っております「釈尊降誕会（花まつり法要）」は、中止致しますが、本堂に降誕仏をお祀りし、ご自由に参拝頂けるよう準備を整えておきます。どうぞご自由にご参拝くださいませようご案内致します。

◇日にち…4月8日（水）

◇時間…午前9時より

午後4時まで

本堂を開放

編集後記

この妙法寺だよりを執筆している現在、新型コロナウイルスの感染拡大の猛威が日本中を襲い、各地でのスポーツや文化イベントは、政府から中止や延期するよう要請され、学校の閉鎖が相次ぎ、予断を許さない状況にあります。

お寺の行事は、お年寄りの方も多く、本堂に集まり、お経を読むという性質上、暫くの間、大勢の方々が本堂や客殿に集まったの行事は、感染拡大のリスクが収まらない限りは、開催しない方向ですが、**個人でのお参りは、従来通り受け付けております。**きっと今年も妙法寺の桜もキレイに咲くことでしょう。マスクや除菌、手洗いがいなど、充分に対策を整えて頂き、ご参拝くださいますようお願い申し上げます。



受付にて除菌用のウェットティッシュを用意しております。数に限りがございますが、ご参拝の折にご利用ください。